



要員不足が生み出された根源は、

経営による「人事施策」

全社的な要員不足で職場に人員がいない状態が慢性化しています。

この要員不足の根源にあるのは、「人事施策」です。特に「新たなジョブローテーション」は、社員の働きがいや喪失させ、心身への負荷と生活設計の破壊につながっています。他方、正当な評価や還元が行われないことも相まって、会社への帰属意識の低下を招いています。その結果、社員を退職や退職へと追い込む事態となっています。また、職場では統括センター化によって、相互運用や兼務が行われる中、特定の社員を敢えて一つの担務に固定化（融合させない）ことも報告されています。

そのような状況の中「25日に勤務発表ができない就業規則違反」や「年休申請の抑制」や「休日出勤を当然とする雰囲気づくり」等、異常な職場運営が行われています。

この間、会社が「業務量の示し方」を「作業ダイヤ数」での管理に変えたため「要員数」がわかりづらくなり、職場の「要員不足」と「休日出勤増」を引き起こしています。

経営の都合に振り回され、心身を蝕まれては、たまったものではありません。

要員不足に関して「人（採用）が集まらないから仕方ない」等となりがちですが、本質を突き詰めると経営による「人事施策」に行きつくのです。